

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	医療・介護関連肺炎罹患した利用者に対し介護老人保健施設体制下で療養生活支援の継続を図る看護のストラテジーに関する研究
作成者（著者）	松元, 由香
公開者	東邦大学
発行日	2023.09
掲載情報	東邦大学大学院看護学研究科 博士論文 内容の要旨及び審査結果の要旨.
資料種別	学位論文
内容記述	主査：藤原和美 / タイトル：医療・介護関連肺炎罹患した利用者に対し介護老人保健施設体制下で療養生活支援の継続を図る看護のストラテジーに関する研究 / 著者：松元由香 /
著者版フラグ	none
報告番号	32661甲第1091号
学位授与年月日	2023.09.25
学位授与機関	東邦大学
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD28223624

審査報告書

学籍番号 :ND19004 氏名: 松元 由香
論文題目 :医療・介護関連肺炎罹患した利用者に対し介護老人保健施設体制下で療養生活支援の継続を図る看護のストラテジーに関する研究
審査日時 :2023年9月6日 17:30~18:45
審査場所 :セミナー室401
審査員 :主査 藤原 和美 副査: 菊池麻由美、横井 郁子

1. プレゼンテーション

提出された論文についてPPTを用いてプレゼンテーションが行われた。

論文は、1. 介護老人保健施設が担う役割、2. 老年期と肺炎、3. 老年期に肺炎罹患した際の医療・ケアに関連するガイドラインの変遷と新たな肺炎診療の場となった介護老人保健施設、4. 介護老人保健施設の肺炎罹患と看護実践に関連する文献検討、5. 介護老人保健施設において医療・介護関連肺炎罹患した利用者のFIMの推移と療養生活支援(研究I)、6. 医療・介護関連肺炎(NHCAP)に罹患した利用者に対し介護老人保健施設体制下で療養生活支援の継続を図る看護のストラテジーに関する研究(II)、終章. 老健体制に向けたNHCAP療養生活支援における看護のストラテジーの7章で構成されていた。

1~3において、老健を取り巻く歴史的背景と高齢者の肺炎と終末期医療・ケアに対する各関連部門が提言している、または、制度化しているもの等を丁寧に整理した。その上で、介護老人保健施設での肺炎罹患に関わる看護実践について文献検討をした。老健下で限定的ではあるが抗菌剤を使用した肺炎治療が承認され、その治療成果は医師によって報告されている。一方で、肺炎治療下での生活支援、または、看取りへ移行する看護実践の報告は少ない。酸素投与が容易にできない環境、人員配置はそのままでの状況で、老健の本来の役割は遂行できているのか。この問いに対して、老健での肺炎罹患前後のFIMの変化を診療録で調査すると同時に、同施設の看護師に利用者への対応に関するインタビューを行なった結果が5. で述べられている。生活支援の主体が介護職のこの現場で、肺炎罹患した高齢者がFIM低下を招くことはなく生活が継続できていることに看護師は関わっているのだが、この調査で明らかにできなかったことから、6. の研究を計画した。

強化型、超強化型介護老人保健施設の看護師を対象に、肺炎罹患時の看護実践について語っていただき、質的記述的に分析したものが6. の研究IIである。7人の逐語録を切片化、コード化、カテゴリー化し、NHCAPの進行時期に沿った3期(「全利用者を対象としたNHCAP予防・罹患兆候発見の時期(I期)」・「NHCAP診断・抗菌薬と薬と並行し罹患前の生活再開準備を進める時期(II期)」・「罹患前の生活を再開できずNHCAP反復罹患が生じる老衰・看取りへ移行を要する時期(III期)」)と、常に用いられる「NHCAP罹患時の間接的支えとなる通常的支援の基盤」の看護のストラテジーが抽出された。

各コードから丁寧にサブカテゴリーを形成し、インタビューが用いた用語をネーミングに反映して、明瞭にストラテジーを示した。そこからは、看護師が多職種、とくに介護職に対してどのような言葉、タイミングで声をかけ、動き、ケアに活かしているか、さらに、看護師の多職種理解、連携・協働の具体、家族との共有のタイミング・内容等が明らかにされた。

終章では、明らかになった具体と1~3で整理した老健の変遷、日本呼吸器学会成人肺炎診療ガイドラインで示された医療・介護関連肺炎に対するQOLを重視した治療をしない選択、診療・介護報酬、そして、

人生の最終段階における医療とケアの決定プロセスなどさまざまな社会背景を図に示した。高齢者を取り巻くさまざまな動き、診療・介護報酬を活かし、ときに守られながら“看護のストラテジー”が成り立っていることの考察は非常に興味深い。

研究成果は、老健で医療・介護関連肺炎に罹患した利用者の療養生活支援を構築に寄与し、加えて、老健でどのような疾患や状態が受け入れられるか、また受け入れにはどのような体制を準備する必要があるのか検討に貢献するものである。

2. 審査員との討議

サブカテゴリーが“看護のストラテジー”を反映したインタビューの言葉を活かしたカテゴリー名になっている一方で、カテゴリー名の一部がストラテジーとはとりにくいものがある点について議論し、修正を検討することとなった。

3. 審査結果

本後期課程における研究活動は、老健で医療・介護関連肺炎に罹患した利用者の療養生活支援の構築を推進・評価するものである。介護老人保健施設での看護師の役割は各施設で定められている。しかし、実際はケアの主たる担い手である介護職との境界が見えにくく、それを「協働」という言葉で表現していることが多いと推察する。本研究では、その協働の実際が語られ、研究者は“重層的”という言葉で考察するなど、現状を第三者と共有できるための表現を慎重に選び論じており、分析が非常に丁寧であることを審査員一同、高く評価した。

また、介護老人保健施設が今に至るまでの制度の変遷等歴史を紐解き、かつ、確かな経営基盤の上に展開される高齢者支援という広い視野に立って、看護師たちのインタビューを分析・考察したことは、今後のあり方をも考えさせるものとなったといえる。

本課程で一つの現象を解明していくために、多面的に学び分析する必要性を実感しており、継続して学び続ける意思を最終試験で確認した。ディプロマポリシーは達成できたと判断し、合格とした。